

風船キャッチゲーム

教科・場面

生活

授業・実践のねらい

・自分なりの方法でゲームを楽しむ。

対象の児童・生徒

小学部 4年生 5名

(独歩・介助歩行可の児童 2名、
車椅子の児童 3名)

教材・教具

ゴミ袋を切り開いて貼り合せる

木枠に固定

段ボール
に固定

ペットボ
トルに水を入
れて重しに
する

工夫したところ

- ・ゴミ袋をピンと張った状態で傾斜をゆるやかにすることで、風船がゆっくり進むようにした。
- ・黒の傾斜（ゴミ袋）に白い風船というように色の対比をハッキリさせた。
- ・風船の中に鈴を入れたものも準備した（風船が重くなるため進むスピードははよくなる）。



授業展開・教材の使い方・実践の内容など

○傾斜の上からゆっくり向かってくる風船をキャッチする。

- ・独歩や介助歩行の児童については、風船の進路に合わせて身体の向きを変えたり、自分から手を伸ばしたりするのを待つ。
- ・車椅子の児童については、車椅子の操作は教師が行う。顔や身体の前きた風船に手を伸ばしたりしっかり視線を送ったりしたらキャッチとし、リアクションを待ったり表情の変化を待ったりする。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

独歩・介助歩行の児童に関しては、風船の進路に合わせて自分で身体の向きを変えて動こうとする姿が見られた。車椅子の児童も、風船をしっかり目で追ったり、目の前に来た風船に手を伸ばしたりする姿が見られた。